

【日本農業新聞 2016年9月20日付～9月26日付の紙面から】134回目

<コメント>

臨時国会が26日、召集された。政府・与党は、第2次補正予算を成立させた後に、TPP承認案・関連法案を審議するという。TPP承認案は条約に当たるので、衆院可決後、参院で30日以内に議決しないと、衆院議決が優先されて自動承認となる。議決を急ぐ政府は10月中の衆院通過を考えている、との見方がある。これではTPP審議は2週間程度しかなく、強行採決を考えているとしか思えない。政府・与党は「農業者の不安解消に努める」と言ってきたが、それには審議を十分尽くことが不可欠だ。口先だけだったのか注視したい。

<概要>

■ベトナム TPP承認見送りへ／審議は米国情勢見極め

【9月22日付3面】

ベトナムがTPPの年内承認を見送る見通しになったとロイター通信が報じた。来月20日からの議会で、TPPが議題にならないとの議会筋の見方を伝えた。議会筋は「政府の提案が固まっていないため、次の議会でTPPは議題にはならないだろう」と語った。またグエン・ティ・キム・ガン議長は「ベトナムの批准は、米国の大統領選の結果や世界情勢次第」と述べ、議会での審議は11月の米国大統領選の数カ月後になる見通しも伝えた。

■TPP特委／野党筆頭に 民進・篠原氏

【9月22日付3面】

民進党は21日、26日召集の臨時国会で衆院TPP特別委員会の野党筆頭理事に、篠原孝元農水副大臣を充てる方針を固めた。篠原氏は超党派の議員連盟「TPPを慎重に考える会」の会長を務める、TPP反対派の筆頭格。政府・与党は秋の臨時国会でTPP承認案と関連法案の成立を目指す。民進党はTPP断固阻止を訴える篠原氏を起用することで対決姿勢を鮮明にした格好だ。

■民進 きょう追及チーム／TPP 説明と矛盾

【9月23日付1面】、

民進党は、政府が国家貿易で輸入する売買同時入札（SBS）米の入札で不透明な取引があったとされる問題で、23日に追及チームを設置する。SBS米の取引価格など実態を解明し、国産米価格への影響はないとしてきた政府の説明との整合性を厳しく問う構え。初会合では農水省の聞き取りを行う。同党は、26日に召集される臨時国会でもSBS米の実態解明を重要案件と位置付ける考え。TPP承認案と関連法案の審議にも影響しそうだ。

■SBS米入札 調査終了まで停止／農相「TPP審議 争点に」

【9月24日付1面】

政府が国家貿易で輸入するSBS米の不透明な取引を巡る問題で、山本有二農相は23日の閣議後会見で、取引業者を対象に行っている実態調査を終えるまで、SBS米の入札

を停止する意向を明らかにした。26日召集の臨時国会で政府が成立を目指すTPP承認案と関連法案の審議で、野党との間で同問題が争点の一つになるとの見方も示した。

■ TPP審議 SBS問題 火種に／臨時国会 きょう召集 野党の追及必至

【9月26日付1面】

第192臨時国会が26日、召集される。TPP承認を今国会の最優先事項とする政府・与党は、11月8日の米大統領選や同月30日の会期末をにらみ、10月中の衆院通過を目指す。ただ、農産物の合意内容に加え、SBS米の不透明な取引問題への、野党の厳しい追及は必至だ。臨時国会ではまず、2016年度第2次補正予算案を審議する。政府・与党は10月中旬までに成立させ、直後から衆院特別委員会でTPPと関連法案の審議に入る考え。

以上